教え方のズレ KPI記録シート

週間記録 ／ 段階ごとの理解の確認と、若手職人が自立してできるようになった作業を振り返る

現場名：＿＿＿＿＿＿＿＿　監督：＿＿＿＿＿＿　職長：＿＿＿＿＿＿

記録期間：　　年　　月　　日 ～　　月　　日

1　教える段階・理解の確認方法・自立の基準を決める

教わる若手職人・教える人／対象の作業（1件の単位）：

教える段階（例：準備 → 手順 → 判断 → 仕上がり確認）：

各段階での理解の確認方法（本人の説明・実演など）：

自立の判断基準（品質・安全・判断・必要な相談／確認者）：

2　終業時に記録する

プロセスKPI：教える内容を段階に分け、各段階で相手の理解を確認できた回数

結果KPI：若手職人が、決めた基準で自立してできるようになった作業の件数

日付	段階ごとに理解を 確認できた回数	新たに自立してできる ようになった作業件数	対象者・作業名・確認した段階 理解の状況・自立を確認した根拠
／	回	件	
／	回	件	
／	回	件	
／	回	件	
／	回	件	
／	回	件	
／	回	件	
合計	回	件	

※ 回数：段階に分けて教え、説明・実演などで理解を確認したら、1人・1段階につき1日1回まで。
※ 件数：決めた基準で新たに自立できた作業を、確認日に1件。同じ人・同じ作業は翌週以降も重複計上しません。
※ 自立は逐次の指示なしで基準を満たせること。決めた条件での相談は含みます。該当なしは「0」、休日は「休」。

3　気づきと、次に教える段階・理解の確認方法を見直すこと

人を責めるためではなく、若手の成長を確かめ、教える段階や理解の確認方法の見直しに使います。